



発行者:愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛病院 発行責任者:院長 西村一孝 <http://www.ehime-nh.go.jp>



塩ヶ森（標高524.7メートル、東温市須之内）から望む道後平野

も < じ Contents

| | | | |
|--------------------------------|---|---------------------------------|---|
| 新春特別寄稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 | 重心文化祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6 |
| 愛媛病院に期待すること | | 11月15日(日)開催 | |
| 健康フォーラム 2009・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 | 叙勲の栄誉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6 |
| 11月29日(日)開催 | | 井町名誉院長 | |
| 放射線科のフィルムレス化始まる・・・・・・・・・・ | 3 | 職場紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6 |
| 新型インフルエンザワクチンの安全性に関する臨床研究・・ | 4 | ICU | |
| 医療の輪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 4 | 看護学校の頁 ～学び舎から～・・・・・・・・・・ | 7 |
| 繋がる地域医療連携（西本整形外科） | | 学校祭 | |
| 私たちがスペシャリストナースです・・・・・・・・・・ | 5 | ちよつと言い放し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7 |
| 認定看護師紹介 | | 外来診療担当医表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8 |
| 医療安全管理室だより 第17回・・・・・・・・・・ | 5 | | |
| 転倒・転落防止の取り組み | | | |

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。



新春特別寄稿

愛媛病院に期待すること

東温市医師会長 別宮 徹 先生



平成の市町村大合併によって平成16年9月21日に東温市が誕生しましたが、地域医師会もそれに伴い再編を迫られて平成18年3月20日に北条市温泉郡医師会を解消して東温市医師会となりました。発足時の会員数は開業医21名、勤務医34名(平成21年11月10日現在では開業医24名、勤務医38名と若干増加)であり、大変に小規模な医師会となってしまいました。初代会長に私が選任されましたが、小規模医師会の利点を最大限生かすことに力点をおいた活動を行うこととしました。そこで副会長には西村愛媛病院院長に就任していただき開業医、勤務医の垣根を取り払った全員参加型医師会を目指すこととしました。この方針は医師会の中で勤務医の先生が多数を占めているのですから至極当然のことといえます。

東温市は全国でも屈指の良好な医療環境に恵まれておりますが、それでも今後の地域医療のあり方として医療資源の有効活用を行う上で医療連携を更に推進すべきという点で私と西村副会長の意見は一致しました。

東温市医師会における医療連携の中心となるのはやはり愛媛病院であり、そこで医師会事務局を愛媛病院研修棟に置いて医師会による各種講演会、研修会を愛媛病院で開催するようにいたしております。これは愛媛病院の先生方との顔が見えるお付き合いをすることで医療連携がより円滑に行われることを念頭に置いたものでもあります。愛媛病院の先生方も積極的に医師会活動に参加していただいております。また西村病院長の力強いリーダーシップのもとに愛媛病院は進化して



東温市医師会長 別宮 徹 先生

おり良好な医療連携が構築されつつあります。その一環として平成16年11月に地域医療連携室が開設されており、患者さんの紹介などに関してスムーズかつスピーディーに行われるようになっております。加えて病診連携推進の観点から開放病床を設置されて開業医と共同して入院患者さんを診療するシステムを既に運用されておりますが、今後は特に無床診療所の先生の専門性を生かしたシステムとして共有病床を導入することでより一層の病診連携が推進されるものと期待しております。

このように愛媛病院スタッフの方々が一丸となって患者さん中心の医療を展開されておられることに対しまして改めて敬意を表したいと存じます。何れにしましても東温市医師会の中での愛媛病院の存在は大変に大きいものであり、今後とも地域の中核病院として益々発展されますことを心から祈念いたします。

11月29日(日)開催
健康フォーラム 2009
300名超来場

2009年11月29日(日)、恒例の健康フォーラムが開催されました。当日は少し肌寒かったのですが天候には恵まれ、300人を超す来場者がありました。

記念講演は「笑いの力」と題して、財団新居浜病院精神科のドクターで日本笑い学会四国支部代表（高座名：芸乃虎や志「げいのこやし」）でもある枝廣篤昌先生にお話しいただきました。落語を交えた巧みな話術は会場を爆笑の渦に引き込み、予定時間があっという間に過ぎていきました。

また医療相談やメタボ測定・歯科検診・救急体験（AED）といった定番コーナーや、今回初のアロマセラピーのコーナーも盛況でした。前回から定着したおせたい料理は松山地方の郷土料理「おもぶりごはん」と「だんご汁」で、こちらには長い列ができ、今回から行われた特産品販売のコーナーでは、売り切れの品も出るほどの人気でした。

東温市の恒例行事として定着した感のある健康フォーラム。これからも盛り上げていきたいと思いません。最後になりましたが、東温市はじめ、東温市医師会 東温市歯科医師会等々ご協力いただいた各方面の方々に厚くお礼申し上げます。



とろみ食品体験



アロマセラピー



準備中



記念講演



おせたい料理

放射線科の フィルムレス化 始まる

当院では、2009年12月1日より医療画像検査（整形の一部、歯科撮影を除く）のフィルムレス化がスタートしました。2006年5月医用画像管理システム（PACS）の導入により、画像配信のネットワークは整備されました。しかし、画像データの蓄積がなくモニター上で経時的観察を行うことができなかったため、4年間の画像データの蓄積を経て運用の運びとなりました。

今まで、「そんなのかんげーねー!」（古い!？）と思っていた方も“フィルム”がなくなる訳ですから、そんなことも言ってもらえませんよ。画像はすべて診察室などに設置されたモニターで見ることになります。従来のフィルムの現像は原則として行われません。

フィルムレス化のメリットには次のようなものがあります。

1. フィルムの管理業務、保管が不要
2. 画像データの管理が容易
3. 検査スループットの向上（待ち時間の短縮）
4. 患者サービスの向上（フィルムの持ち運びが不要）

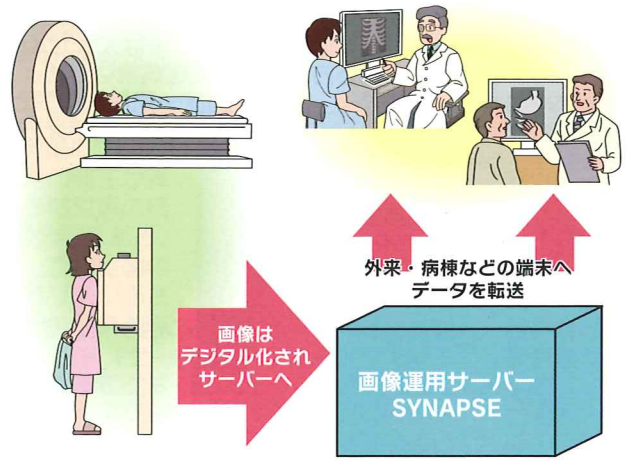
また、*電子画像管理加算とフィルム処理にかかるコストの削減により、経営面でもメリットがあります。

従来、当院から紹介先への貸し出しまたは提供はフィルムを基本としていましたが、原則的にCD-Rでの配布となります（返却の必要はありません）。また、ご希望によりこれまで同様フィルム出力の対応も致します。

とにかく、患者様もスタッフも便利になりますので早くこのシステムに慣れましょう。

取り扱いに関するお問い合わせは放射線科スタッフまで。

※電子画像管理加算とは、2008年4月より開始された診療報酬（これまではデジタル処理加算）で、PACS使用のフィルムレスが条件となります。



やっつけろ～!

新型インフルエンザワクチンの安全性に関する臨床研究 当院も参加 320名が被験者に応募

本年の春、思いもかけずメキシコにおいて新型の豚インフルエンザA/H1N1がヒトの間で流行し始め、アツという間に広がり、6月には早くも世界的流行となつてしまいました。欧米と同時に我が国でも予防ワクチン開発が急遽始められ、10月には国内4社でワクチン製造が始まりました。

まず国立病院機構4施設の医療従事者200名を対象として効果判定が行われ、健康成人では1回接種で効果のあることが確認されました。次には大人数で副反応のチェックを行うことが必要で、厚生労働省の依頼により、10月19日と20日(予備日21日)に国立病院機構職員22,112人を対象とした安全性(副反応)確認のための接種が行われました。当院も接種を行う67施設の一つに選ばれ、250名が研究に参加しました。効果や接種回数やワクチン製剤包装量などが確定していない中、機構本部と連絡を取りながら1週間で急ぎ準備したため、接種場所や方法など2転3転しましたが、10月19日、20日、21日になんとか無事接種を終えることができました。

初日には県内のマスコミ各社が駆けつけ、ワクチン接種が開始されたことが新聞やテレビで報道されました。直前に開封後の余剰分も接種してよいことになり病院職員38名がさらに接種を受け、接種者は合計288名となりました。研究参加の250名からは副反応チェックのための健康観察日誌(接種後1週間の体温・局所反応・全身反応、有害事象の有無を記載)を回収し、機構本部への結果報告を11月4日に無事すませることができました。

幸いにも、重篤な有害事象は見られませんでした。11月10日には全国集計結果が出て、発熱は3%、局所反応は約70%、全身反応は27%で、季節性インフルエンザワクチンと大差は見られませんでした。特記すべき有害事象は59件でした。情報伝達・書類回収、ワクチン接種、



コンピューター入力などにご協力いただいた看護部、管理課、薬剤科、治験管理室の多くの方々に深謝いたします。

昨年の「高病原性鳥インフルエンザワクチンの安全性の研究」「MMRV抗体検査とワクチン接種」、今回の「新型インフルエンザワクチンの安全性の研究」と昨年より3回のワクチン研究が国立病院機構の職員を対象として行われました。いずれも国民の健康維持のために早急に行わなくてはならない重要な研究でした。これだけの規模で早急に結果が出せるのは国立病院機構が長年培ってきた臨床研究組織の賜だと思えます。機構の臨床研究が国民に直接に貢献しているよいアピールになっています。愛媛病院としても、このような重要な研究には今後も積極的に参加していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

小児科・臨床研究部 松田俊二

医療の輪



西本整形外科

繋がる地域医療連携

平成5年に田窪に、整形外科・リハビリテーション科を専門に19床の有床診療所として開業し、早いもので今年で17年目を迎えています。

有床ということで、腰麻・上肢伝達麻酔で出来る手術は行うようにしております。最近では、保存的治療の限界を迎えた変形性膝関節症やリウマチの方への人工関節も行っております。

リハビリに関しては、理学療法士5人と共に運動器リハビリ・通所リハビリを行い、いわゆる健康寿命の延伸を目標としております。当院に入院した患者さんについては、単なる臥床はさせないようにベッドサイドのリハビリを行い、疾患の回復と共に歩行・移動動作の早期回復を目指しております。

整形外科的疾患の診断には、MRI、CTは欠かせぬ検査で、専ら愛媛病院放射線科さんのお世話になっておりますし、専門外の疾患を合併される方も多く、愛媛病院はじめ、地域の他科の先生方のお世話になっております。

有床診療所という性格上、無床一有床一病院の中間として、慢性期の後方ベッド・在宅への橋渡しの役割も重要と考えております。これからもよろしくお願致します。

| | |
|------|---|
| 施設名 | 西本整形外科 |
| 住所 | 東温市田窪303-1 |
| 電話 | 089-964-1611 |
| FAX | 089-964-1658 |
| 医師 | 西本章 |
| 診療科目 | 整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科 |
| 診療時間 | 午前9:00~12:00(月~土) 午後2:00~6:30(月・火・水・金) 午後2:00~4:00(土) |
| 休診 | 日曜、祝祭日、木曜午後 |



スペシャリストナース 私たちが認定看護師です



感染管理認定看護師
若林副看護師長

☆認定看護師とは

医療の発展とともに看護師に必要とされる役割も多様化してきました。そのため、看護のスペシャリストの育成が急務となり、「看護現場において実践・指導・相談の3つの

役割を果たすことにより、「看護ケアの広がり」と「質の向上を図ることに貢献する」目的のもと、日本看護協会が資格認定制度を発足し、1997年に認定看護師が誕生しました。認定審査によって「特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者」を選定、現在では19分野が特定されています。

●感染管理認定看護師

(Infection Control Nurse : ICN) の役割

病院における感染管理は、全ての患者さんや家族・面会者、医療従事者を感染から守る役割を担っており①疫学の知識に基づく院内感染サーベイランスの実践 ②ケア改善にむけた感染防止技術の導入③各施設の状況にあわせた感染管理プログラムの立案と具体化を行うことが求められています。

実際の活動

- 病院内の感染症発生状況の把握
- 医療従事者への指導・教育
- 感染防止マニュアルの作成と対策実施状況の確認
- 感染対策に関連した問題などの相談

私は認定看護師となって5年が経過し今年更新審査に合格しました。感染対策は細菌やウイルスといった目に見えないものとの戦いです。今後も感染対策を強化できるよう取り組んでいきたいと考えています。



●皮膚・排泄ケア認定看護師の役割

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、「創傷ケア (Wound)」「ストーマケア (大

工 肛門) (Ostomy)」「失禁ケア (Continence)」について問題を抱えている方に対して専門的な技術や知識を持ってケアに関わることを目的としています。

当院の皮膚・排泄ケア認定看護師は、平成20年6月に誕生しました。皮膚・排泄ケア認定看護師は、健康を害した皮膚ならびに皮膚障害のリスクの高い脆弱な皮膚に対し健康を取り戻すことを目的に専門的知識と技術を用いて患者さんへのケアとNST・褥瘡委員会を通じてのスタッフ教育を行っています。

実際の活動

具体的には、人工肛門の術前ケアから社会復帰するまでの生活指導や、在宅に帰ってからのライフスタイルに関する相談や援助を行います。創傷ケアは創傷治癒の環境を整えて自然治癒を促すケアです。褥瘡の予防のためのマットレスの選択やポジショニングピローの使用方法、褥瘡発生後は創部のケアを行います。全身に対してはNSTと共同して適切な栄養摂取の方法等について援助を行います。また、近年は糖尿病に合併する下腿潰瘍や糖尿病性壊疽の増加を認めており、これらに関する皮膚のケア相談にも関わっております。失禁ケアに関しては、排尿障害及び排泄障害の知識を基に、なぜ失禁が起きているのかを考え、失禁と失禁に伴う問題の改善を促すケアです。ならびに失禁に伴う皮膚障害の改善とその予防を行います。今後はこれらの問題に関して、地域で生活される方々へも援助したいと思います。

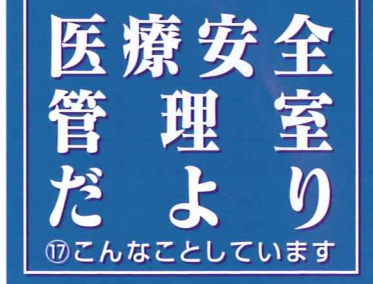
現在、皮膚・排泄ケア分野の相談を、月2回(第2・4木曜日)スキンケア外来で受けています。外来は、予約制としていますので、内科担当医にご相談下さい。



皮膚・排泄ケア認定看護師
篠原看護師

転倒・転落防止の取り組み発表会

平成20年度、国立病院機構の全病院で転倒・転落事故防止の取り組みが開始されました。当院の医療安全部会では21年度は全部署で転倒・転落事故防止に取り組むことを計画しました。まず、医師、理学療法士、ベッド業者を講師に転倒・転落に関する研修会を3回開催しました。続いて11月には転倒・転落防止対策について発表会を行いました。各病棟、事務部、検査科、リハビリ科、薬剤科、指導室等19部署の実際の取り組みについての発表が行われました。



その内容の一部を紹介します。具体的な転倒・転落報告内容を検証しポータブルトイレの設置について検討しました。またベッド周囲の環境についてチェックリストを作成し、毎週チェックをすることで、転倒・転落の発生が減少しました。その他非常口にセンサー付き照明灯を設置したり、予防対策の検討内容、睡眠剤開始患者の服薬指導内容、ベッド～車椅子等の移乗の取り組み、車椅子使用時の注意点、等色々な着眼点からの発表がありました。また全国の取り組みスローガンであるKYT(危険・予知・トレーニング)でリスク感性を高める取り組みをしている部署もあり、各部署の特殊性がありそれぞれ興味深くお互いに参考になる内容でした。

それぞれの立場で全部署が取組んでいただいても転倒・転落はなくすことは出来ません。ただ患者さまへの影響レベルが低くすむように、今後もリスク感性を高め転倒・転落事故防止の取り組みを継続していきたいと考えています。



重心文化祭

11月15日(日)

開催

11月15日(日)、重症心身障害児・者病棟の秋の行事として文化祭を開催しました。療育訓練棟の中にそれぞれコーナーを設け、楽しんでいただきました。魚釣りコーナーでは、狙った魚を釣り上げたり、なかなか釣れずに奮闘したりする姿が見られました。釣った魚によって、プリン、コーヒゼリー、クッション、靴下等色々な景品が当たり笑顔が見られました。ドリンクコーナーでは、カルピス、コーヒ、オレンジジュース等の中から好きな飲み物を選び、休憩コーナーでくつろいでいただきました。

また作品コーナーでは患者さまの手描きやパソコンで描いた絵画、ちぎり絵、紙粘土、習字、写真などの作品50点ほどが展示され、入場者の目を楽しませてくれました。

その隣では、『国際デザイン・アート専門学校』の生徒さん達の作品が、会場を華やかに彩ってくれていました。グラフィックデザイン画や漫画の原画、キュービックを組んで作った立体のクジラや、デザインされた洋服、家の設計図や模型等々。普段あまり目にする事のない作品の数々に、感嘆の声が上がっていました。完成度の高い作品に、患者さまも強く影響を受けたようです。

午後からは、美人奏者による弦楽四重奏のコンサートが開かれました。

ヴァイオリン2台、ヴィオラ、チェロの奏でる優美な音色に皆さんじつと耳を傾けて魅了されていました。耳慣れた童謡やアニメ、ディズニー、ポップス、クラシックなど色々なジャンルの曲を奏でてくださいました。最後に、感謝の気持ちと共に再会を願って花束を受け取っていただきました。

並行して開かれた保護者によるフリーマーケットも、盛況のうちに完売しました。それぞれのコーナーで食欲や芸術の秋を楽しんでいた一日でした。

最後に、ご協力いただいた関係者の皆様、ありがとうございました。



作品に見入る来場者

叙勲の榮譽 井町名誉院長

平成4年4月から11年3月まで、当院の院長を務めておられた井町恒雄先生(現愛媛病院名誉院長)に対し、2009年秋の叙勲において、瑞宝中級章が授与されました。

瑞宝章は「国家または公共に対し功労があり、公務等に長年従事し、成績を挙げた者」に対して授与されるもので、今回、井町名誉院長の在任中の功績が評価されたものです。

井町先生は11月11日(水)に東京で催された伝達式に出席され、授与を受けました。職員一同心よりお祝いをいたします。



勲章を着け、勲記を手にする
井町名誉院長

職場紹介

ICU(集中治療室)とは、内科・外科系を問わず、呼吸・循環・代謝などの重要臓器の急性臓器不全に対し、総合的に集中的に治療・看護を行い、回復させる場所です。

当ICUは2床で、心筋梗塞、急性心不全、急性呼吸不全、重症肺炎、脳梗塞、消化管出血などの救急患者さま、手術後の患者さま、そして、病院内で重症化した患者さまが入室されています。その患者さまの刻々と変化する状態を的確に捉え、判断し、生命維持、救命を第一優先に、手術後や重症度の高い患者さまに迅速で的確な治療・看護を各科の医師と看護師8名で実践しています。そのICU看護を実践するにあたり、私たち看護師は、正確な知識、技術を身につけておく必要があります。そこで、研修に参加したり、学習会を行ったりして自己研鑽し、患者さまの安全を守れるよう努めています。

ICUでは、一般病室と異なり監視モニターや点滴ライン、人工呼吸器などの医療機器に囲まれ特殊な環境となりますので、患者さま、ご家族にとっては不安や緊張の連続だと思います。このような患者さまやご家族の気持ちを考え、少しでも不安や緊張感を緩和できるように「笑顔と優しさ」を忘れないで、声かけや説明を大切に援助しています。また、治療や処置に終わることなく、患者さまの生活リズムを考慮した日常生活の援助も行っています。

今年度は、自分たちが行った看護を振り返る「看護を語る会」を実施し、知識・技術を共有したり、スタッフが互いに認め合ったりしてチームワークを高め、患者さまに最善の看護を提供できるように頑張っています。これからも、患者さまの安全を守るとともに、「I:いつも、C:キュートで、U:美しい笑顔」で、「親切・思いやり・優しさの心」をもって看護を行っていきたいと思います。



ICUの内部

HEART(命)とHEART(心)を支えるケア

ICU

愛媛病院ニュースに掲載する写真、イラスト、原稿を募集しています。
お問い合わせ、投稿は「愛媛病院 管理課」までお願いします。
TEL.089-964-2411 Mail:puff@ehime-nh.go.jp



看護学校の頁

～学び舎から～

学校祭

2009/10/31

去る10月31日土曜日、「夢追う看護～感じよう♥人との温もり～」のテーマの元に第八回学校祭を開催しました。今回の学校祭はインフルエンザの流行が懸念されるため、昨年よりも広報・呼びかけを縮小し行いました。しかし当日の来客数は100名を超え、思ったより多くの方々に来て頂き、いろいろな催し物も盛況に実施できました。

学校祭は私たち2年生が中心となって企画・運営を行います。その中で、私は学校祭実行委員長という大役を任せられました。初めてのことで戸惑うこともありましたが、先輩にアドバイスを頂きながら、また後輩の協力を得ながら進めていくことができました。

今回の学校祭のテーマを決定するにあたっては、各学年に案を出してもらい協議しました。そして、たくさんの人との交流を通して人の温もりを大切にしながら一步夢に向かって進もうという思いを込めて、「夢追う看護～感じよう♥人との温もり～」としました。

催し物は、食品バザー、フリーマーケット、ビデオ上映、喫茶、学習展示、ミス・ミスターコンテスト、ダンス、アロママッサージ、ゲーム、血圧測定など行いました。各係が計画から支え合い協力し合って無事成功させることができたと思います。

私が心に残っているのは、準備の段階で放課後残っているときに手伝ってくれた仲間の存在です。準備をしている私たちに声を掛けてくれて手伝ってくれました。心から仲間の温もりを感じました。

第八回学校祭を終えて、患者さんや地域の方々などの来客者の方との交流の機会となり、私たちはいろいろな場面でテーマである“温もり”を感じることができました。そして3学年で協力し合い、協調性や思いやりの大切さを学ぶことができました。

学校祭に協力して下さった愛媛病院のスタッフの皆様、来校して下さった来客者の皆様、助言を下された先生方、協力し合った1年生から3年生までの学生の皆様、本当に有り難うございました。

学校祭実行委員長 2年生 川上小百合



学校祭実行委員と学生自治会顧問の藤原先生

ちびっ子言ひ放し

愛媛病院ニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

むかあし昔のことじゃったそうな、それはそれは可愛く優しい娘が居ったんじゃそうな。ところが、これがある男に嫁ぎ、二人の子の母親になるにつれて、昔の面影は跡形もなくなり、となりのトトロと信楽焼の狸を足して、ドラえもんで割ったようなオバサンになってしまったんじゃと。それでついた仇名が「崖っ縁のブーッ」と言うんじゃそうな。誰を隠そうわが女房殿のことである。この拙文が本人の目に触れても、自分のことだと気付きませんように…と祈る思いでビクビクしながら書いている次第である。

正月だからというわけでもないが、来し方を振り返れば、結婚して早二十とん年。長男は昨年成人式を迎え、次男も今年は高校二年になる。時には紆余曲折、大波小波もあつたけれど、無事にここまで辿り着けたのも、「貧乏世渡りを苦にもせず、いつもニコニコと優しく微笑んでいるお前であつたればこそ」と口には出さないけれど、深く感謝している。

ところで、人生の折り返し点を過ぎると、自分の後半生が見えてくるせいだ、「年頭の抱負」と肩に力を入れることもなくなり、願うのは、家庭の円満と安寧がこのままいつまでも続きますようにと、いたって小市民的なやさやかなものになってくる。市井の片隅の名もなき民草が迎えた平穏な正月。

「めでたさも中へらいなりおらが春 一茶」といったところだろうか。

嬉しそつに餅をバクつく女房を眺めながら、「昔はもうちよつとこう、クビシというものがあつたんじゃがなあ」と眩く元旦の朝。

「なべて世はこどもなり」

樹懶菴

外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858
 外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

| 診療科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|-----------------|--------------|----------------|--------------|-----------------|-------------|--------|
| 内科 | 循環器 | 船田 | 橋田 | 橋田(午前) | 岩田 | 船田 |
| | | 岩田(午前) | | 森岡 | | |
| | 消化器 | 古田・久保 隔週 | | 古田 | 久保 | 久保(午前) |
| | 呼吸器 | 阿部 | 市木 | 西村 | 阿部 | 市木(午前) |
| | | 佐藤(午後) | 渡邊 | | 植田 | 藤原(午後) |
| 神経 | 河野(第1・3午前) | 中村(午前) | | | 戸井 | |
| | 橋本(第2・4午前) | | | | | |
| 専門外来 (完全予約制) | 心臓リハビリ 橋田 | 心臓リハビリ 橋田 | 心臓リハ外来(橋田)午前 | 心臓リハ外来(橋田)午前 | 心臓リハビリ(橋田) | |
| | | | 心臓リハビリ(橋田)午後 | 肺がん検診(西村)午後 | じん肺外来(西村) | |
| | | | 神経難病(橋本) | スキンケア外来(第2・4)午前 | 禁煙外来(渡邊)午後 | |
| | | | SAS外来(植田) | アスベスト外来(午後) | 糖尿病外来(古川) | |
| | | | ペインクリニック(山内) | ペースメーカー外来 | | |
| 外科 | | 鈴木 | 心臓外科(隔週) | 渡部(消化器外科・隔週) | | |
| | | | | 澤田(第1) | | |
| | | | | 末久(第3) | | |
| | | | | 山下(第5) | | |
| 整形外科 午前のみ診療 | 宮本 | 曾我部 | 曾我部 | 宮本 | 曾我部(第1・3・5) | |
| | 横手 | | | | | |
| | 装具 10:30~ | 装具 10:30~12:30 | 横手 | 装具 10:30~ | 宮本(第2・4) | |

※外来受付は午前8時30分から午前11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。平成22年1月1日現在
 ※容体急変の心臓疾患・急性呼吸不全の患者様は24時間受け入れいたします。
 ※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛病院

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
 ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

当院の位置と交通



高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
 - 高松西IC(130.9km) 1時間30分
 - 徳島IC(170.9km) 1時間50分
 - 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当院まで車で5分)

交通機関

- 電車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分
または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
- バス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
- 自家用車 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分
無料駐車場完備